

第153期 中間報告書

自2021年4月1日 至2021年9月30日





執行役会長兼CEO
東原 敏昭



執行役社長兼COO
小島 啓二

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社は、本年6月、東原敏昭を執行役会長兼CEO、小島啓二を執行役社長兼COOとする新たな経営体制に移行し、さらなる成長への取組みを加速しています。

当中間期の業績・配当

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた前年同期からの市況の回復や為替影響に加え、日立Astemoの経営統合やパワーグリッド事業買収の影響などにより、売上収益は前年同期比29%増の4兆8,326億円となり、調整後営業利益は前年同期比1,292億円増の3,100億円となりました。EBITは前年同期比392億円増の4,254億円となり、親会社株主に帰属する当期利益は前年同期比716億円増の3,224億円となりました。

このような事業の状況のもと、株主の皆さまへの中間配当につきましては、前年度中間配当から10円増配の1株につき60円といたしました。成長実現のために必要な資金を確保しつつ、株主の皆さまへの利益還元のさらなる向上を図っています。

さらなる成長に向けて

日立は、社会イノベーション事業のグローバルリーダーになるべく、「2021中期経営計画」を推進し、新型コロナウイルス感染症の影響下でも、着実に成長のための経営基盤を確立してきました。

その最終年度である今年度は、7月に米国GlobalLogic社の買収を完了するとともに、8月には新たにフランス タレス社の鉄道信号関連事業の買収を決定するなど、事業ポートフォリオ改革をさらに進めてまいりました。

また、環境価値の向上に向けて、「2050年度までにバリューチェーン全体でカーボンニュートラル達成」という目標を新たに掲げ、11月に英国で開催されたCOP26*に日本企業として初めてプリンシパル・パートナーとして参加しました。日立は、脱炭素社会の実現を主導するとともに、気候変動分野において革新的な役割を担ってまいります。

*第26回気候変動枠組条約締約国会議

日立は、これからの新たな成長のステージにおいても、社会やお客様に新たな価値を提供し続けるとともに、持続可能な社会の実現に向けた取組みを進めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、より一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

2021年11月

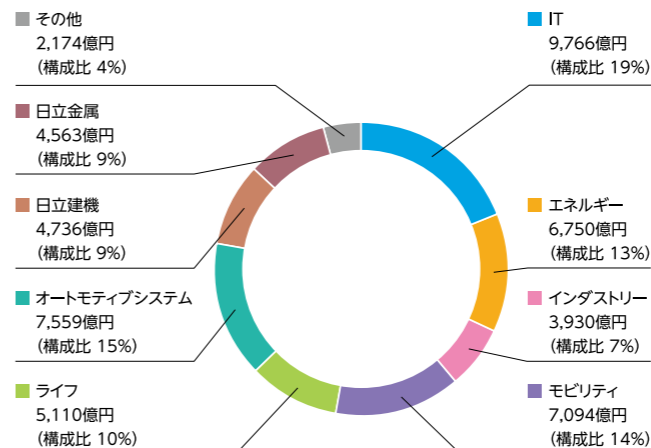
執行役会長兼CEO **東原 敏昭**

執行役社長兼COO **小島 啓二**

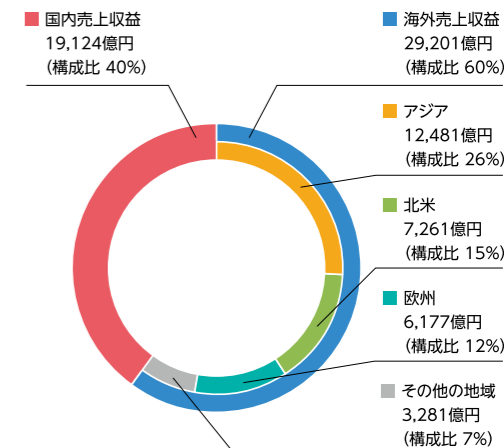
2021年度中間期(4月1日～9月30日)連結決算の概要 (IFRS)

	当中間期	前年同期比
売上収益	4兆8,326億円	129%
調整後営業利益 (調整後営業利益率)	3,100億円 (6.4%)	172% (+1.6ポイント)
受取利息及び支払利息調整後税引前当期利益 (EBIT)	4,254億円	110%
親会社株主に帰属する当期利益	3,224億円	129%

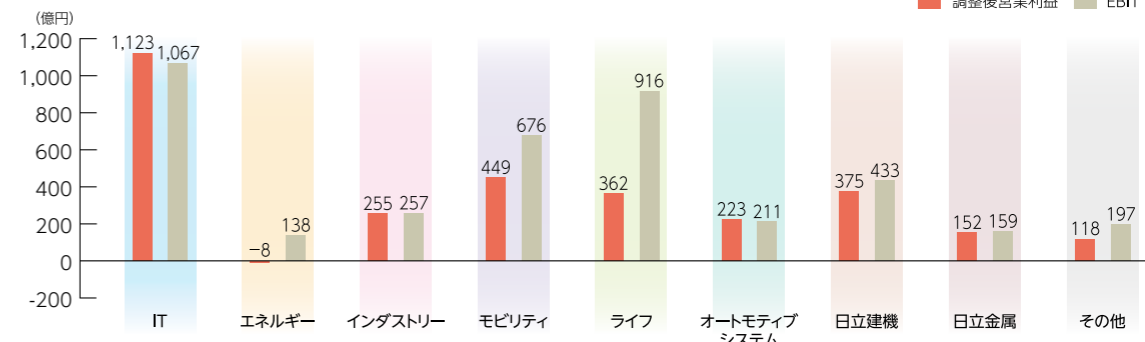
部門別の売上収益



地域別の売上収益



部門別の調整後営業利益及びEBIT



(注) ① 調整後営業利益は、売上収益から、売上原価並びに販売費及び一般管理費の額を減額して算出した指標です。
 ② 受取利息及び支払利息調整後税引前当期利益 (EBIT) は、継続事業税引前当期利益から、受取利息の額を減算し、支払利息の額を加算して算出した指標です。
 ③ 各部門の売上収益は、部門間内部売上収益を含んでいます。
 ④ 当社は、2021年度から、報告セグメントの区分を変更しています。

小島社長兼COOインタビュー

本年6月、新社長となった
小島啓二執行役社長兼COOに、
社長としての抱負や仕事への
取り組み方、その素顔などに
ついて聞きました。



■ まずは、社長としての抱負を教えてください。

リーマンショック以降約10年間、日立はグローバル企業となるための構造改革を進めてきました。成長のための基礎工事である構造改革が進捗し、事業ポートフォリオが完成形に近づいた今、私に課された使命は、この基盤上で、日立が次の10年、成長し続ける道筋を創ることにあります。

私は、データベース研究と巡り合ってから以来、データの持つ価値は必ず世の中を変える原動力になると確信してきました。次の成長を成し遂げていくためにも、Lumada事業を日立の成長のエンジンとした道筋を描き、具現化していきます。

■ 次の成長の10年において、日立はどうありたいと考えますか。

1つ目は、デジタルで成長する企業になることです。パンデミックのような逆境の中でも、安定的に1兆円を超える営業利益を稼ぎ出し、その半分はLumadaで稼ぐ体制をつくります。

2つ目は、ESG経営の深化です。環境経営、ダイバーシティ、コーポレートガバナンスなどで世界トップクラスと認知される企業になります。

3つ目は、利益の還元です。株主の皆さまをはじめとするさまざまなステークホルダーにとってさらに魅力的な企業になっていきます。

■ ご自身の経験を日立の新たな経営にどのように活かされますか？

私は研究開発の経験が長く、システム開発研究所ではIT関連の研究に従事し、その後、基礎研究を行う中央研究所と鉄道などのインフラ技術を研究する日立研究所で所長を務めました。IT、基礎研究、インフラ技術と、3つの異なる研究開発の現場を見てきて、自分は日立のすべての技術を知っていると思っています。

こうした経験を活かし、デジタルとさまざまなプロダクトを組み合わせて新しいイノベーションを起こすことで、これからの多くの社会課題を解決する会社として、日立を成長させていきたいと考えています。

■ 座右の銘は何でしょうか。

「有言実行」です。困難な目標に挑むことを宣言し、それが達成できなくて非難されることを恐れない、というのは日立の企業風土とも合致しており、特にグローバル環境で仕事をする時に大切にしています。

■ オフの過ごし方を教えてください。

学生時代に音楽(クラシック)を習っていたこともあって、音楽はジャンルを問わず好きで、自宅では音楽を聴いてリラックスした時間を過ごしています。音楽で学んだ地味な基礎訓練と体調管理の大切さは仕事にも通じる場所があると思っています。

■ 最後に、株主の皆さまに向けて一言お願いします。

今後の「成長の10年」の中で、大きなテーマの一つが、株主の皆さまをはじめとするあらゆるステークホルダーの価値の向上です。成長戦略など私たちの考えをわかりやすくお示していくことで、皆さまからのさらなるご理解を得られるよう尽力いたしますので、ご支援の程よろしくお願いたします。

1982年～	日立入社、中央研究所に配属。「データベースの高速化」の研究に従事
1996年～1999年	米国駐在
2000年～	システム開発研究所で、部長として「データストレージシステム」開発に従事
2008年～2011年	中央研究所長
2011年～2014年	日立研究所長
2016年～2018年	サービス&プラットフォームビジネスユニットCEOとして、Lumadaを立ち上げ
2019年～2021年	ライフセクター長として、収益性改善の指揮をとると同時に、Lumada事業モデルの確立に注力
2021年6月～	執行役社長兼COO

Lumada事業を加速する協創拠点「Lumada Innovation Hub Tokyo」を開創

日立は、これまで培ってきたデジタル技術やデジタルソリューションを活用し、協創を通じて社会やお客様の課題解決を行う場として、東京駅直結の「Lumada Innovation Hub Tokyo」を開創しました。

● 知恵やアイデアを掛け合わせる

お客様やパートナーのさまざまなアイデアと日立の経験や技術を掛け合わせる協創の場として、オンラインでも利用可能なスペースを活用し、価値創出を活性化させます。



Meet-Up Square: 協創のきっかけを作るオープンスペース

● GlobalLogic社など国内外の拠点・専門家との連携

Lumada事業の協創拠点のハブとして、日立グループの国内外の拠点や専門家とつながり、協創を進めることができます。GlobalLogic社が世界各地に有するデザインセンターなどの拠点とも新たに接続し、同社が日本市場でサービスを提供する協創拠点としても活用を開始しています。



DX Gallery: タッチパネルのスクリーンで、Lumada事例の検索や紹介が可能なスペース



詳細について、WEBサイトもぜひご覧ください。

https://www.hitachi.co.jp/products/it/lumada/innovation_hub/index.html

サントリー天然水工場でのLumada協創

サントリー食品インターナショナル(株)の「サントリー天然水 北アルプス信濃の森工場」において、Lumadaソリューションを結集したIoT基盤を構築しました。

工場内のさまざまなデータを収集・統合するIoT基盤により、商品1本ごとにデータを紐付けた管理や工場全体の見える化・デジタル化を可能にし、進化し続ける次世代ファクトリーをめざしています。



AIによる感染症予報サービス

AI技術を活用して、4週間先までのインフルエンザの流行予測情報を、天気予報のように提供します。今後、新型コロナウイルスなどへの応用もめざしています。

本サービスは、ビジネスアイデアの事業化を支援する日立グループ内のコンテスト「Make a Difference !」から生まれたアイデアです。



詳細や開発ストーリーについて、WEBサイトもぜひご覧ください。

https://www.hitachi.co.jp/products/it/lumada/spcon/uc_01673s/index.html

ニューノーマル対応ビルIoT・就業者ソリューション

設備や人流などのデータをもとにオフィスの利用状況の見える化や空調設備の自動制御などを可能にする「BuilMirai」や、専用アプリでオフィス生活に必要な情報の入手や施設予約などが一元的に行える「BuilPass」が、ニューノーマルに対応したビル管理と快適なオフィス環境の実現を支援します。



リニューアルした日立ビルシステムの
本社オフィスに導入



詳細について、WEB サイトもぜひご覧ください。

<https://www.hitachi.co.jp/products/buildingsystems/products-solutions/building-common/index.html>

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月末日まで
配当金受領株主確定日	毎年3月末日及び毎年9月末日
定時株主総会の基準日	毎年3月末日
公告方法	電子公告 (https://www.hitachi.co.jp/publicnotice/index.html)
株主名簿管理人	東京証券代行株式会社
本店 (事務取扱場所)	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目11番地
郵便物送付先	〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
	東京証券代行(株) 事務センター
電話お問合せ先	0120-25-6501 (フリーダイヤル)
	(受付時間：月～金曜日 9:00～17:00 (祝日・年末年始を除く。))

各種お手続きのお申し出先

株式に関する各種お手続き (ご住所・お名前の変更、配当金振込指定、単元未満株式の買取・買増請求など) につきましては、以下のいずれかの窓口にお申し出ください。

- | | |
|-----------------------------|---------------|
| (1) 証券会社の口座に記録された株式に関するお手続き | ご利用の証券会社 |
| (2) 特別口座に記録された株式に関するお手続き | 東京証券代行(株) (※) |

※三井住友信託銀行(株)の全国本支店においても、お取次ぎしています。

1単元 (100株) 未満の株式をお持ちの株主様へ

単元未満株式 (100株未満の株式) をお持ちの株主様は、1単元に不足する数の株式を当社から買い増し、単元株とすることができます。また、単元未満株式を時価にて当社にご売却いただくこともできます。ご希望の株主様は、上記各窓口 (「株主メモ」欄の各種お手続きのお申し出先をご参照ください。) にお申し出ください。

また、証券会社の口座に記録された株式をお持ちの株主様で、単元未満株式が特別口座に記録されている場合は、現在ご利用されている証券会社の口座に単元未満株式を振り替えることにより、口座を一本化することができます。ご希望の株主様は、東京証券代行(株) (「株主メモ」欄をご参照ください。) にお申し出ください。

株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きで必要となります。このため、株主様から、ご利用の証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

マイナンバーのお届出に関するお問合せ先

- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| (1) 証券会社の口座に記録された株式について | ご利用の証券会社 |
| (2) 特別口座に記録された株式について | 東京証券代行(株) (「株主メモ」欄をご参照ください。) |

株式会社 日立製作所

〒100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号 電話 (03) 3258-1111 (大代表)

<https://www.hitachi.co.jp/>



ユニバーサルデザイン (UD) の考え方にに基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。